

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	2671200117
法人名	ヤマト株式会社
事業所名	ニングルの森 平尾
所在地	〒611-0003 京都府宇治市平尾台1丁目3-8 (電話) 0774-33-1882

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年1月6日	評価確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】(平成20年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 7 人(兼務 6人), 非常勤 7 人, 常勤換算	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(12万円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	700 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1700 円			

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人和松会六地藏総合病院 小林歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宇治市の比較的高級住宅街にあり、理事長が個人の純和風住宅を改造したホームで、認知症利用者への移転によるダメージは極力抑えられている。近くにある保育園や障害者の共同作業所と、また隣の児童公園で地域住民との交流をしている。このホームのいちばんすばらしい取り組みはケアマネジャーが利用者の様子をていねいに、あたたかい視線で書いている手紙を毎月家族に送っていることである。その結果、家族はホームの運営に非常に協力的であり、運営推進会議への参加やクリスマス会の運営協力などが実現し、家族の認知症理解も進んでいる。管理者はこの仕事は人の生き死にに立ち会うことができ、自分の人生への大きな意味があるとして魅力があるという。職員も資格があり、経験の豊富な人が多く、利用者の生活歴を詳細に聴いている点、毎月カンファレンスをしている点等、介護のレベルは高い。これからは更なる個別ケアに向けて種々の工夫をすることが期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価で指摘された点のうち、利用者の生活歴を聴取すること、記録の充実、職員の離職対応など、いくつかの点で改善が進んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は看護師とケアマネジャーが職員の意見を聞きながら書き、それを管理者がまとめている。自己評価は職員としてマンネリになりがちな業務のふりかえりになっている。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>宇治東福祉会、近くの保育園あや共同作業所の職員、家族等が参加している。宇治市介護保険課や地域包括支援センターにもメンバーになって参加してもらおうよう要請しているが、開催日が土曜日や日曜日では出席できないといわれている。町内会長は株式会社の運営する事業所に協力できないといわれている。家族は熱心に参加されている。グループホームの役割や認知症について啓発をおこなっている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族は毎日来る人から4カ月に1度来る人など、熱心に面会にこられるので、その際に情報交換し、苦情や意見を気軽に言ってもらえるようにしている。1時間も2時間も話して帰る人もいる。苦情記録は詳細に残されているが、職員にとっての反省点としている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域の福祉関係のボランティアがホームの隣の児童公園で近所の人に呼びかけてお茶を飲んだり、交流したり、レクリエーションを楽しんだりする「公園サロン」という集まりを毎月開催しており、利用者も参加している。近くの小学校、中学校等の文化祭や体育祭には利用者が見学に出かけており、小学生の体験学習を受け入れている。ホームの行事にも地域の人に来てもらっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は開設当時より、「自然・地域と統合した人間として幸せな生活」を決めており、グループホームもこの理念にしたがっている。立派な玄関に額に入れて掲げている。この理念を踏まえて、施設の方針として6項目を決めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の業務のなかで、管理者と職員は会議中やふだんの会話のなかで、理念はものさしであり、常に理念に立ち返って、自身の業務をふりかえることを確認しあっている。理念の浸透により、職員の個人的な動きがなくなってきた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉関係のボランティアがホームの隣の児童公園で近所の人に呼びかけてお茶を飲んだり、交流したり、レクリエーションを楽しんだりする「公園サロン」という集まりを毎月開催しており、利用者も参加している。近くの小学校、中学校等の文化祭や体育祭には利用者が見学に出かけており、小学生の体験学習を受け入れている。ホームの行事にも地域の人に来てもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は看護師とケアマネジャーが職員の意見を聞きながら書き、それを管理者がまとめている。自己評価は職員としてマンネリになりがちな業務のふりかえりになっている。昨年の評価で指摘された点のうち、利用者の生活歴を聴取すること、記録の充実、職員の離職対応など、いくつかの点で改善が進んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	宇治東福祉会、近くの保育園や共同作業所の職員、家族等が参加している。宇治市介護保険課や地域包括支援センターにも参加してもらおう要請しているが、開催日が土曜日や日曜日では出席できないといわれている。町内会長は株式会社での運営する事業所に協力できないといわれている。家族は熱心に参加している。毎回現況を報告するだけでなく、グループホームの役割や認知症について啓発をおこなっている。	○	運営推進会議は地域密着型サービス事業所として大事な会議であり、行政は当然として、近くの交番のおまわりさん、消防署、よく買物に行くスーパーの店長などにもメンバーになってもらい、幅の広い議論ができるようにすることが望まれる。

ヤマト株式会社ニングルの森平尾

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宇治市介護保険課には相談をしている。介護相談員を受け入れている。	○	宇治市とは運営推進会議に参加してもらうことは言うまでもなく、地域住民への介護相談、認知症啓発等々の講演会などを共同で開催するなど、緊密な連携が求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはケアマネジャーが利用者の様子を詳しく書いた手紙を毎月送付している。その手紙を読めば利用者の様子がよくわかり、認知症への理解も深まるように、暖かい目線で書かれている。運営推進会議に家族は熱心に参加し、終了したあとも互いに交流している。昨年クリスマス会を開催したとき、参加した家族が自発的に運営を手伝って下さり、管理者や職員は喜んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は毎日来る人から4カ月に1度来る人など、熱心に面会にこられるので、その際に情報交換し、苦情や意見を気軽に言ってもらえるようにしている。1時間も2時間も話して帰る人もいる。苦情記録は詳細に残されているが、職員にとっての反省点としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動は少ない。パート職員の退職はあったが、すぐに補充している。以前に退職した職員が再び就職してくることもある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画はないが認知症介護実践者研修をはじめ、センター方式、認知症ケア、感染症予防、リハビリテーション、ファシリテーター、認知症まちづくりリーダー研修等をテーマに受講している。外部評価を受審した場合は報告書が出され、伝達研修を実施している。資格取得の希望には受験日のシフトの配慮等支援している。一人ひとりの職員の課題については話し合っているが十分ではない。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府内の株式会社が運営しているグループホーム同士の交流組織をもっており、隔月に集まりをもち、相互見学や研修、交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスの利用者が申し込む場合が多い。利用開始前には見学、宿泊等を勧めている。1日泊まった人から1カ月泊まった人まで、試し利用されている。試しに泊まって、そのまま利用の人もある。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は冗談を言い合ったり、利用者の昔話にもらい泣きすることもある。きちんとした暮らしをしてきた人からは立ち居振る舞いや昔のしきたり、また生活のなかで美しいものを追求する生き方などを教えられている。また昔のしきたり、歳をとるということや人としてのあり方など、職員は多くのことを利用者から学んでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者情報シートという独自の書式をつくり、利用者の写真を貼り、家族構成、ADL、医療情報等を記録している。生活歴は年ごとに住所、一緒に暮らした主な人、そのころの暮らしという項目にしたがって聴取した情報を整理している。その他、「私大切にしていること」「私がしていたこと、できたこと」「私の願い」の情報を聴取している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時には本人と家族から上記の情報を収集し、管理者がアセスメントしている。ケアマネジャーが1週間後に仮の介護計画を立て、スタッフの意見を聞いて、家族の同意をとっている。さらに1カ月後に検討し、確定の介護計画としている。3カ月後には改めて見直している。介護計画には職員も積極的に意見を述べている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月計2時間以上をかけて利用者全員のショートカンファレンスをしている。認知症の混乱期にある利用者には昼寝タイムが必要ではないかなど、職員は積極的に意見を述べている。ケアマネジャーがまとめて記録し、家族への手紙にも活かしている。毎日の介護記録は介護計画の項目に沿ったものではあるが、介護計画を実施した結果や実施できなかった理由などは記録されていない。	○	介護記録は介護計画に沿って、実施したかどうか、その結果の利用者の表情や言葉、職員の考察などを書くこと、その際、重要なことが落ちないように工夫することと職員によってできるだけ記録にバラツキがないような工夫することが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症デイサービスを併設しているため、利用者はその人たちと交流できること、いろんなレクリエーションと一緒に楽しめることなどがメリットになっている。また近くの保育園や障害者の共同作業所との交流もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急の場合はもちろん、定期受診でも家族が同行できない場合は同行している。歯科は契約歯科医が検診にきてくれる。認知症専門医は近くの宇治おうばく病院の医師と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「看取りに関する指針」を明記している。それによると、医療行為が必要でない場合、本人や家族の希望があればターミナルケアを行うこと、医師と連携をしながら個別ケアを行うこと、その際家族にも協力していただきたいことが書かれている。本人や家族からの同意書はとっておらず、職員への研修が実施されていない等、今後に期待される。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	和室の2間続きの居室もあるが、ふすまをきちんと閉めている。トイレのノックをしない利用者には見守りをしている。トイレ誘導等の声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の日課はあるものの、起床も就寝も自由である。それまでの生活習慣から昼前まで寝ている人もいる。なかなか眠れないと訴えて、階下へ下りてくる人には職員がゆっくり対応している。職員と話したいために、わざわざお茶をもらいに来る人もいる。		

ヤマト株式会社ニングルの森平尾

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアマネジャーが栄養士の資格をもっており、1カ月分の献立を立てているが、日によって利用者の希望により変更することもある。食材は食材配達会社から買っているが、利用者とともに買物に行くときもある。季節感に富んだ和風献立で味付けもおいしい。鍋料理のときは大鍋から1人鍋に取り分けている。ドライブのついでなどに外食にも行く。食事中は職員も一緒に食べながら会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回以上の入浴であるが、希望する人には毎日でも支援している。入浴時間は午後遅くであるが、火曜日と金曜日は夜間入浴をしている。マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜切り、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等の食事関係、洗濯物干し、洗濯物たたみ、しわ伸ばし、居室の掃除等の家事を利用者は支援されながら行っている。コースターを縫ったり、刺し子をしたり、編み物をしたり、転倒防止体操などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は散歩やちょっとした買物に毎日のように出かけている。季節の行事としては初詣、節分、花見、夏祭り、紅葉狩りなどに外出している。敬老の日の日帰り旅行として昨年は琵琶湖グランドホテルに家族ともども行っている。利用者の個別外出は家族をお願いしているが、希望が強い利用者を東大阪の自宅があったところへ同行し、その際にお墓参りもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、勝手口、車庫への入口等々、日中はすべて施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画があり、防火管理者を設置している。消火器、感知器を備えており、スプリンクラーは今後の予定である。夜間会定の避難訓練をしている。防災協定書については町内会と話し合っている。町内会としての災害対策を提案して、予算化されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と水分摂取量を記録している。毎日の献立のカロリー値は記録されているが、栄養バランスについても記録に残すことが期待される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな個人の住宅を使っており、玄関は大理石の階段になっている。お正月には注連飾り、門松を飾り、玄関の大きな壺に松と南天、白菊の花を生けている。灯籠と松のある庭があり、広縁には籐椅子をおいてお茶を飲んでいる。廊下の隅の棚には青銅製の置物、日本画の額、居間には大きなシャンデリア、窓にはレースと布の2重のカーテン、窓の棚には生け花、置物、その他、掛時計、食器類等々、すべて個人の持ち物をそのまま使っており、家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の3室は和室、2階の6室は洋間であるが、そのうちの1室は広く、夫婦でも利用可能になっている。ベッド、洗面台が備えられ、利用者はじゅうたん、すわり机、テレビ、椅子、ホームコタツなどを持ち込んでいる。家族の写真、利用者本人が書いた墨絵の額、ぬいぐるみ等を飾り、自分の部屋としている。		